



謹賀新年



下里事務長挨拶



新年あけましておめでとうございます。昨年は、春から新型コロナウイルス感染症の対応に追われた1年でした。医療介護に関わる私共としても無我夢中で感染対策対応に追われる日々でありましたが、今までとは違った発想で個々の病院にあった対応の仕方が必要だと痛感した1年でもありました。今年は介護報酬改定の年で、新型コロナウイルス感染症対応をきっかけにIT技術の取入れることがいっそう推進されそうです。地域の医療介護を支えるために確実に成長させていくことが求められている昨今ですが、これを機会に法人全体でも可能な限りITを推進し、訪問リハビリを利用している方々、提供している側も共に利便性が向上し、滑に移行できるよう今後も地域の医療介護を支えるために努力し本年もどうぞよろしくお願い致します。

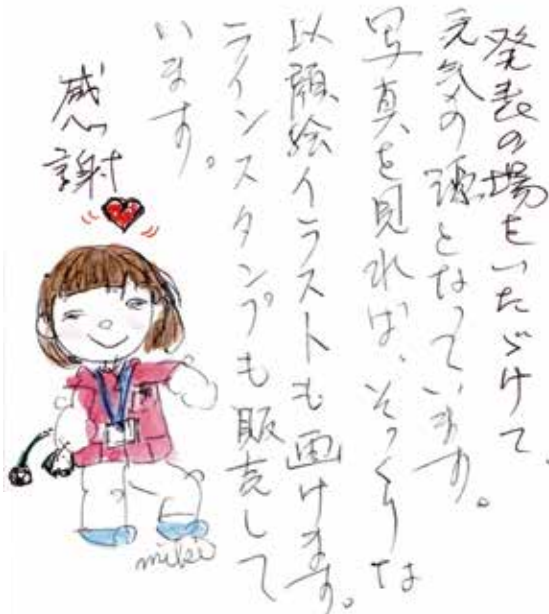
医療法人聖仁会 西部総合病院 経営管理部長 下里雅敏

【できた！！報告会】

～インタビュー～ No.11



スタンプは
コチラから



ベッドの上からの社会参加
～イラストとLINEスタンプ～



【できた！！報告会】

在宅生活の貴重な経験

～インタビュー～

No.12

～ 移乗リフトを学ぶ・伝える・院内連携 ～

先日、ある患者様のお宅にお伺いしました。私は、現在院内でのリハビリを担当しています。退院後に移乗リフト（車椅子～ベッド間の乗り移り時に使用）の導入の提案を検討している患者様がいるため、リフトを使用して生活されている方の情報を聞きたいと、訪問リハビリのスタッフに相談しました。すると、ある患者様のご厚意により生活場面を見せて頂けることになり、今回の訪問に至りました。

【質問】

①リフトで持ち上げられているときに恐怖感やスリングシートが食い込むなどの不快感はないか？ →（患者様の回答）特になし。

②スリングシートの着脱は大変ではないか？

→（奥様の回答）シートが滑りやすい生地のため着脱しやすくなっている。使っているのはお尻から頭まで覆える長いタイプのシートで、車椅子上で着脱するときは慣れるまで練習が必要かもしれない。

③リフトを使ってみて良かった点は？

→（奥様の回答）乗り移りが安全により少ない負担で行えるということ以外に使ってみて分かった点は、

（1）ズボンが食い込まない。（介助者が直接体を支えて乗り移りするときは、ズボンのウエスト部分を持って行うことが多いが、その場合ズボンが食い込みやすく、車椅子に移った後も裾が上がったまま直しにくい）

（2）体を支えて乗り移る際は、立つときに足を支えるための装具をつけている。しかし、リフトを使う際は装具をつけずに行えるため、足が楽。

その他にも奥様自身で工夫して行っている技（介助方法）を丁寧に教えて下さり、恥ずかしながら今回新たに学んだことがたくさんありました。また、ご夫妻で踊り子に乗って伊豆に旅行に行かれたときの素敵なお話も聞かせて下さいました。

金久保康代

かなくぼ やすよ

○出身地

さいたま市

○好きな事（チーム・音楽など）

マラソン、スキー、楽器演奏、パン作り

○前はどこで何をしていたか？

幼稚園に勤務。

○リハビリでしたいこと

患者さんの思いを大切にしたりハビリをしたいです。

○リハビリで苦労したこと

日々勉強が必要である事。

○一言

少しでも皆さんの力になれるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



【ご家族様より】

病院を退院するとき、より長く一人介護を継続していくために、在宅でも病院と同じように使える何かいい道具がないかと漠然と考えていました。そんな中、周りからは障がい者施設への入所を進められ見学に行った施設で、狭い住宅でも使用出来るリフターを使っている方からお話を聞く事が出来、同じ様なリフターを導入し在宅生活を開始しました。リフターを使うことで、車椅子からベッドに乗り移るときにも、シーツや服のズレが少なく、その後のベッドでの体向を考えた位置の調整や、上方への引き上げの必要性も減りました。介護者の負担も軽減されました。入院中から在宅生活まで、リハビリスタッフと生活動作を相談することも、円滑な在宅生活への移行と安心を得るために必要だと思います。退院から8年が経過し、リフターも使い慣れ、今では在宅のスタッフにも使い方を伝える事もあります。1日でも長く在宅生活を送るために、多くの方にリフターの存在を知って頂ければ幸いです。辛くない介護が理想です。介護者の負担を減らす事、介護で介護される側の気持ちの負担を少し軽く出来るのではないかと日々感じています。

【ご本人様より】

乗り移りの介護負担をあまり気にすることなく在宅ワークにも取り組んでいます。

今回、勝手なお願いにもかかわらず、ご協力下さいました患者様ご夫妻には心より感謝申し上げます。

【作成者】 西部総合病院 リハビリテーション部 作業療法士 金久保 近森

リハビリテーション部－訪問リハビリ研修

当院入院患者さんの退院後の生活をより深く考え、院内のスタッフとの連携強化と共に、リハビリテーション部全体で地域に根差したケアミックスのより良いリハビリテーションを提供する為に、訪問リハビリ研修を開催しました。訪問リハビリについての座学の後、訪問リハビリに同行し、実際の実際の生活場面や在宅でのリハビリを見学をさせて頂きました。



【研修に参加して学んだこと、感じた事】

この度は訪問リハビリについて丁寧にご指導下さり本当にありがとうございました。利用者さんの needs に合わせたリハビリ、環境設定、関わり方について学ぶことができました。貴重な体験ができ、とても嬉しく感謝しております。

広橋

「〇〇に行きたい」という目標に対して実際の環境で練習することで、現状との差がわかり、意欲が高まると思いました。また、院内のリハビリでも、自宅での生活をイメージする大切さを学びました。この度は見学・同行をさせて頂きありがとうございました。

山崎

この度は訪問リハビリの見学をさせて頂き、ありがとうございました。自宅の環境に合わせたリハビリや患者様のための準備や PT・OT・ST それぞれのリハビリ内容の理解が深まりました。貴重な体験をさせて頂き、誠にありがとうございました。 小針

この度は訪問リハビリの見学をさせて頂きありがとうございました。利用者様に適した「治す・防ぐ・支える」リハビリを提供したり、関わるなかでの利用者様のモチベーションを維持することが大切だと学びました。これからも綺麗な風景を撮るための歩行訓練や、可愛いイラスト制作を頑張ってください。応援しています！ 上藤

このような機会に協力して頂いた方々に感謝申し上げます。今回の経験を活かし、リハビリテーション部が一丸となって、今後の地域の方一人一人の生活に合わせたより良いリハビリテーションを提供していけるよう取り組んでいきます。

【企画者】 西部総合病院 リハビリテーション部 一同



【報リハギャラリー】 写真で繋がる訪問リハビリ



【タイトル】
お彼岸
【コメント】
近くの土手にて



【タイトル】
できた！！
【コメント】
第1号



【タイトル】
初詣
【コメント】
密を避けてお参り



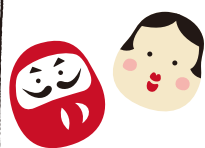
【タイトル】
くるくるまわる
【コメント】
折り紙コマ



【タイトル】
安心して座れたよ！
【コメント】
スカートガードを硬い
段ボールで作りました



【タイトル】
受付のバックナンバー
【コメント】
『匠』の収納術
受付の星野さんの技！



【報リハとは？】

西部総合病院リハビリテーション通信～みんなで造る広報誌～『報リハ』は、日々利用者さんやそのご家族が取り組んでいる事、興味がある事、悩んでいる事、リハビリに求めている事などを何でも、みんなで共有することで、在宅生活をより『明るく』『楽しく』送れるように多くの『できた!!』が集まるように盛り上げていければと思います。



西部総合病院



聖光会グループ
医療法人聖仁会



西部在宅ケア
センター